

北海道一の幹周の大山桜・浦河町「オバケ桜」樹勢回復・その4

1 はじめに

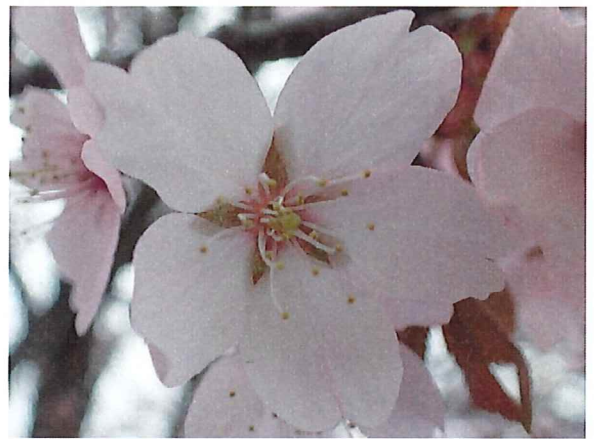
「オバケ桜」は、浦河町西舎の「優駿さくらロード」の奥にある JRA 日高育成牧場の敷地内にあり、幹周 490cm、樹高 15.6m で、北海道では幹周の一番太いオオヤマザクラ (*Prunus sargentii* Rehder var. *sargentii*) です。

「オバケ桜」という名は、浦河町の要請を受けて JRA が命名していますが、日高幌別川の支流オバケ川がすぐ近くにあるため、生立場所を示すとともに、この桜の巨大さも感じさせるネーミングであると思っています。



オバケ桜

2020.05.06



オバケ桜

2020.05.06

2 「オバケ桜」の樹勢回復措置

2023 年（令和 5 年）11 月 15 日、「オバケ桜」の樹勢回復措置を行いました。2020 年（令和 2 年）、2021 年（令和 3 年）、2022 年（令和 4 年）に引き続き、4 回目となります。浦河町から、「優駿さくらロード」の桜の樹勢回復事業の業務委託を受けている金田樹木医が地元調整を行い、観光資源としての「オバケ桜」のブラッシュアップを図る目的で、縦穴式土壌改良法を主とした樹勢回復措置を行いました。参加者は、樹木医金田正弘氏、御子息の金田紘幸氏、当社樹木医の木戸口和裕の計 3 名です。

「オバケ桜」の木製の立ち入り防止柵の内外で、ヨモギやセイタカアワダチソウなどが繁茂しているため、(株)グリーンマインドの作業員の方々が、短時間で下刈り作業を行い、その終了を待って、作業を開始しました。



下刈り作業

2023.11.15



刈り払われたミヤコザサ

2023.11.15

2020年では、オバケ桜の立ち入り防止柵の外は、ミヤコザサがかなり繁茂していましたが、JRA日高育成牧場による草刈りで、草地化が進んでいます。立ち入り防止柵内は、下刈りにより一時ミヤコザサが衰退・矮性化が見られましたが、今回は再び勢いを増したようです。人による攪乱がなければ、植生はもとの潜在植生に戻っていくことを示していると思われます。地下茎で増えるミヤコザサは、大山桜の細根とも競合するので、その衰退を図るために、夏期に一度十分に成長させた直後に刈り払い、さらに夏期末期に再び成長したものを刈り払うという、「二回刈り」を行うことが有効です。

11月15日の作業内容は次のとおり。

- ①穴あけ器によるエアレーション
- ②アースオーガーによる縦穴式土壌改良法
- ③堆肥を縦穴への散布
- ④縦穴表面に上記③充填後にフジミン Forest 等の散布
- ⑤枯損枝落とし

今回の樹勢回復では、①のエアレーションを根域全体的に格子状に行い、細根への酸素の供給を行ったこと、②のアースオーガーによる縦穴式土壌改良法を行ったこと、が特徴です。当該桜は一本桜で、その根は、雨水を求めて樹冠の範囲を大きく越えて、特にこの桜の南側の柵外に発達しているものと考えて、2020年から上記①、②を重点的に行っています。2020年は、ミヤコザサの根があり、アースオーガーの掘削時にキックバックがありましたが、今回は、キックバックこそ少なくなっていますが、思ったほど土壌は柔らかくなっていませんでした。



縦穴式土壌改良法の実施状況 2023.11.15



縦穴式土壌改良法の実施状況 2023.11.15



縦穴地表部へのフジミン Forest の散布 2023.11.15



樹勢回復措置完了 2023.11.15

3 おわりに

樹木医の鶴田誠氏は、桜は「極端な陽樹」、「太陽の子」と言っており、まさに、そのとおりであると思っています。一本桜である「オバケ桜」は、いかに日中、太陽の光を十分に浴びることが、桜にとっては大切なことであり、枝が四方に伸びた美しい樹形の巨樹になりうることを我々に教えてくれています。

しかしながら、太陽の光を十分に浴びることだけで、この「オバケ桜」のような巨樹になれる訳ではありません。「オバケ桜」の場合は、草地造成時に、この桜を伐らずに残すことを決断した方に、まず、頭が下がります。この決断によって、草地に残る一本桜となり、光合成量が増え、旺盛に枝を伸ばして幹を太らせ、巨樹への道を歩むことになったのではないかとと思われるからです。

また、2019年に、この桜を見出した樹木医の金田正弘氏をはじめとする方々によって、「サクラ類てんぐ巣病 (*Taphrina wiesneri*(Rathay) Mix)」の罹病枝の切除が行われています。この罹病枝の存在は、桜の美観を大きく損ねる原因となり、また、樹勢を衰えさせ、他の病害とともに枯死にも至る可能性もあるからです。

従いまして、今日の美しい樹形の大山桜の巨樹「オバケ桜」を見ることができるのは、浦河町のこの地の気象条件や立地条件といったことだけではなく、土地所有者の草地造成時の桜の保全の決断や開花時の一般公開の決断、浦河町役場職員の方々の努力、金田樹木医などによる治療、などの「人の関与」による賜物ではないかと思われます。

2023年に松前周辺で「ブナ科樹木萎凋病」、通称「ナラ枯れ」が確認されています。このような気候変動に起因する病虫害の発生などの山の異変を考えると、「オバケ桜」のような名木の保全は、「人の関与」がより必要となる時代に入ったのではないかと考えています。